熊日1970.07.20

細川証言の速記録から

症状、水俣病に酷似

病理解明を九大に依頼

（七月四日、東京ガン研付属病院で入院中の元チッソ水俣工場付属病院長細川一博士（六九）に対して行なわれた臨床尋問の速記録からネコ四〇〇号に関する個所を抜き出した）

原告代理人坂東弁護士　それ（四〇〇号）以前の段階で工場排水をそのような形で（ご飯にかけて）ネコにとらせるという実験はあったのでございましょうか。

細川　ありましたですね。

坂東　ありましたか。四〇〇号以前に。

細川　排水と申しますのはね、酢酸係とかそういうことでなくてね。たとえば百間から水俣湾に流れ込むあそこの廃液…廃液をね。廃液にドジョウを生かしておいてですね。（略）そういうもので実験をした。あるいは八幡のですね。

（略）

坂東　今のこの酢酸係の排水を直接ネコに投与してやる実験というのは、これは工場のどなたの発想で、そのような実験をやることになったのですか。

細川　それはぼくの考えです。

（略）

坂東　で、先生はそれではその工場排水を直接ネコに投与しようとお考えになられた原因ですね…お気持ちというのはどういうものであったのでしょうか。

細川　それはかなり早くからありましたですがね。

坂東　そういうお気持ちが。

細川　はい、といいますのは工場が疑われ出しましてからね。工場が白であるか黒であるかということを早くぼくは知りたかったんです。それにはその排水ですね、しかも百間の出口の排水をやりましたけれども、そういうところではダメですね。直接触媒水銀を使っているような工場ですね。出そうな工場といいますとねだいたい限られています。

坂東　限られておりますね。

細川　はい。それを集中的に、その排水溝でやりたいというのがぼくの考えでしたけれども、やっぱりちょっと遠慮しまして、なかなか踏み切れませんでした。で話したことはありません。

坂東　工場が疑われているというふうに先生がお考えになられた時期はいつごろでございますか。

（略）

細川　疑われ出したというのは…やっぱり最初から疑われてはおりましたねえ。

坂東　最初からといいますと、いつの時期。

細川　だいたいあの……三十二年ごろからですね。

（略）

細川　で、とにかく水俣湾の魚介類を摂食して食べるですね。化学毒であるというようなことになりましてから、これはやはり疑われていたと思っております。会社におりますけどもね、残念ながら仕方のないことだと…そこへこの排水が行っておりますからね。だからこれを否定しなかったらね。会社の白はね、白ということは否定出来…あの…白ということは言えないんじゃないかと……。だから排水をやってこんなにキレイですよ、ということしかない……と、が、それは黒の方が多いんじゃないかという……。私はそういう感じを初めから持っていました。初めからといいますのは患者発見の時代には持っておりませんけれども、化学毒であるということになりましてからは、私は……当然のあれだと……。

坂東　そういうことについては熊大の先生方ですね、そういう先生方とも先生はお話しになられたことはございませんか。工場があやしいんじゃなかろうかと、あるいは他の先生方のだいたいのご意向はどうだったでしょうか。

細川　別に話したことはありませんが、小島君の論文にはちゃんと出てますね。

坂東　お手もとにありますか。

細川　工場があやしいとは書いてませんけどね、……学位論文です。

（略）

坂東　実験の中身についてお伺いします。実験方法で酢酸係の排水を毎日二〇ccずつ基礎食にかけて経口投与したとありますが、そのへんは記載の通りですね。そして九大にネコを送ったのですね。先生が実験しておられて十月二十四日……。

細川　十月二十四日に殺しました。だいぶ衰弱したのでね。そこで殺した。

坂東　その前のことをお聞きしますが、十月七日でございますね。先生自身がネコの症状が発現したのをごらんになった。その発現の状況はどういうふうな状況でしたか。

細川　発現の状況はこの時はケイレンの発作がありましたね。

坂東　ノートには十月七日から八日には「定型回走運動もあったが、その後なし」と、その他「後肢（し）まひ、ケイレン等もあったという」と書いてございます。

細川　回走運動ですがね。小島君はどうしても六日にやったというのです。私はそれを見たさに七日、八日、九日と毎日見ているのですよ。が、その間はないんですね。……ないんです。

坂東　はあ、回走運動はなかった。

細川　ええ、回走運動というのは、それ、とうとうありませんで、十月二十一日になりましてね。回走運動が、立派な回走運動が出ました。回走運動と申しますのは、ヨダレたらしてケイレンを起こしうずくまる、そしてそれがそれからこう飛び立ってきましてね、壁にぶつかって…目が見えない。運動の激さくがありましてね。それでこういうことが起きれば私はもうまず回走運動、ケイレン……特発のケイレンの発作の次に回走運動……間違いない。これはやっぱりネコを……医者と同じでしてね……やっぱり八百のネコを見た人と二十や三十のネコの臨床を見た人とは私は違うんじゃないかという気がするんです。（略）私がね、自慢話みたいになってしまいましたけどもね。そういうことで、私はこれにかなりの重きをおいておるんです。それから臨床ということもバカにならない……と。

坂東　臨床の結果……これはどういうふうに先生ご自身はご判断になったわけですか。

細川　これは水俣病に酷似しておると言っていいんじゃないかと。しかし事情もね……大変むずかしい事情でしてね。こんな簡単な実験でね。私一人がその……臨床だけではものが言えんと……ものが言える段階ではないからまた病理の……病理と両方そろえませんとね。そんなえらそうなことを言ってみたってしょうがない。それで病理をたのみます……と。

坂東　ということで九大の方へ送られたわけですね。

（以下略）

細川　一博士